

2018~19年度
国際ロータリーのテーマ



インスピレーションになろう



東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1492 / 2019. 6. 07

例会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

<http://www.akasakarotary.com/>

東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2018~2019年度クラブテーマ
会長 小林 博茂

「手に届く奉仕、目に見える奉仕」

● 本日の例会 2019年 6月 7日 通算 1527回 本年度 第 42回

卓話 : 「身近な危機管理（発想の転換）」

元警視正・株式会社 LAB 代表取締役 屋久 哲夫 氏

● 第 1526 回 例会報告 / 2019 年 5 月 31 日

出席報告: 会員 52 名 / 出席 28 名 欠席 24 名

ゲスト : 山崎 良次(卓話)、ルイーズ・ラスキン
清泉貴志

ビジター: 保坂紀久雄 (ガバナー補佐・東京新橋 RC)
計 4 名 (順不同・敬称略)

卓話 : 「日常生活に活かすコンディショニング」

NPO 法人サポートシステム

理事長 山崎 良次 氏



紹介者: 淺沼会員



5月 31 日 8件 16,000 円 累計1,185,000円
多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

小林博茂/石井謙次/土屋東一/浅沼洋一/岩上義明/小原健/藤井万博/鈴木貞史

千代田グループ

保坂ガバナー補佐よりご挨拶

5/12 のロータリーデイのお礼に伺いました。千代田グループの IM でもあり、お陰様で評判も良かったようです。ありがとうございました。



親睦活動委員会: (浅沼委員長)

6/28 の本年度打上会のご案内です。18:30 ~ ホテル地下 1F グローリーにて開催いたします。活弁士の方をお招きしてサイレント映画を流そうかと思います。ご案内は追ってお送りいたします。

6月 ピアノ演奏曲

バッハ作曲 : 「パルティータ第3番」
ドビュッシー作曲 : 「前奏曲集第1巻」

ドビュッシーは、象徴派の詩人と交流、ジャワ島のガムラン音楽や、ムソルグ斯基などロシアの音楽から影響を受け、20世紀初頭にかけて「印象主義」と呼ばれる独自の技法を確立していきました。「前奏曲集」は1909~12年に書かれ、彼の語法をすべて盛り込んでいます。

ピアニスト 泉 春子 氏

今 後 の 予 定	日付	開始時間 終了時間	場所	事項	内 容
	6月 14 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話: アントニオ古賀 氏
	6月 21 日	12:30 14:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会 クラブ協議会	本年度第 6 回・次年度第 1 回クラブ協議会
	6月 28 日	18:30	B1 グローリー ¹ ANA インターコンチネンタルホテル東京	夜間例会 打上会	夜間例会 打ち上げ会
	7月 2 日	18:30	MIXX & BAR (36F) ANA インターコンチネンタルホテル東京	火曜会	テーマ: 「未定」
	7月 5 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	会長・副会長・幹事 新年度のご挨拶



西澤民夫

日本エスアンドティー株式会社・代表取締役
科学技術振興機構・起業支援室プログラムオフィサー
一般社団法人才オープンイノベーション推進協議会代表理事
グローバルコーディネーター

- ・人を助けるとはどういうことか (HELPING-How to Offer, Give, and Receive Help)
- ・「ロータリークラブは親切だね。素晴らしい杖をいただいた。」目の不自由な人が言った。
「白い杖が8本も貯まった」と。
- ・こちらの都合だけの奉仕の精神を茶化した笑い話ですが、我々はこのようなことを、日常結構やっているのを否定できません。
- ・人を助けること、助けられるということは、とても難しいものです。
私は学校を卒業してから53年間一貫してベンチャー企業、中小企業の方の自立、成長を応援してきました。私の経験上、お金があると企業の成長支援というものは、表面上とても楽です。企業支援するにあたって、多少なりともお金があると、支援される側は、支援する人の意見を違っていても、頷くのです。しかし、本当はお金があつても(ないよりあった方がいいのは当然ですが)、経営がうまくいかない例は山ほど見てきました。お金がないというのは、経営者の心構えが問題というのが、ほとんどです。
- ・私は44歳になってから、英語もできずアメリカでベンチャーキャピタルをやりました。
5年間アメリカについて、グリーンカードも取り、アメリカ人と意思疎通も十分できるようになったと自負していました。日本に帰ってきて、愕然としたのです。英語が通じない。なんでだ?
結局、気がついたのは、私がベンチャーキャピタルをしているということは、お金を持っている。その人の言うことを聞いていれば、徐々にお金に近づいていけるという、ことから、私の下手な英語をわかつたふりをしていましたな、ということでした。
- ・一方、振り返って、ベンチャー企業、中小企業の支援にあたっては、支援する側にお金のにおいがする場合は、こちらが企業のためになることを言っても、聞く方は上の空で、ただ頷くだけ。早く説教は終わって、本命のお金にありつきたい、というのが本音になります。
- ・昔、学生時代に読んだサミュエルソンの経済学という本の一節を思い出します。「人に魚を上げることは易しい。ただ魚は食べてしまえばそれはそれで終わり。それより、魚の取り方、もう一段進んで、網の作り方を教えるのが、その人の一生の財産になる。」というものでした。
- ・魚は当座の飢えをしのぐもので、私が志している経営支援は魚の取り方、網の作り方を教えるもので、支援成果も上がり何社もの株式公開にも成功し、それなりの評価も受けています。
- ・経営支援は本当にこれでいいのか、独り善がりの支援になっていないかと、悩んでいたところ、読んで感動した本を今回の卓話の題材にさせていただきました。
その本の名前は「人を助けるとはどういうことか」というものです。著者はエドガー・H・シャイン、金井真弓訳、金井壽宏監訳、英治出版です。
この本では「ともに生きている、働いている、ということは、支えあうということに密着している。周りの人を支援するのがうまい人とそうではない人がいる。できれば深い叡智に依拠して、支援の達人になりたいものだ。」ということをテーマとしています。

<プロフィール>

- 1943年6月17日生まれ ○66年早稲田大学第一政経学部経済学科卒業。
- 66-85年：中小企業金融公庫入社（中小企業金融19年間）。
- 85-98年：山一證券㈱、山一ファイナンス・アメリカ・インク社長等。
ベンチャーキャピタリスト（米国5年間）
- 98年-現在：経営コンサルタント会社—日本S&T㈱を設立、社長就任（現任）。
- 00-14年：(独) 中小企業基盤整備機構本部統括プロジェクトマネージャー足かけ15年。
2014年からイノベーションナビゲータ。
- 2014年 (独) 科学技術振興機構推進プログラムオフィサー（現任）。ベンチャーキャピタルを担当
- 一般社団法人才オープンイノベーション推進協議会代表理事（現任）
- オープンイノベーションフォーラム「ローマの市場にて」主宰（現任）
- 早稲田大学アントレプレヌール研究会理事（現任）
- グローバル・コーディネーター (<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160609001/20160609001-2.pdf>)
- M&A キャピタルパートナーズ㈱取締役（現任）、ラオックス㈱監査役（現任）、他
- 第2750地区東京赤坂ロータリークラブ 2002年12月入会、2013年7月会長、
2016年7月千代田グループガバナー補佐
- 一般財団法人交詢社社員、日本ベンチャー学会会員、中小企業診断士

主な共著：共訳に『ベンチャーファイナンスの多様化』（日本経済新聞社）、
『ベンチャー企業の経営と支援』（新版、旧版）（日本経済新聞社）、
『起業イノベーションの戦略』（プレジデント社）、『管理者のパソコン奮闘記』（近代セールス社）等